

キャンパスライフに対するアンケート結果（令和6年度）

桑原 真裕子、竹村 香、折山 正禮、園原 康平
渡邊 千春、奥井 現理、武分 祥子

1. 目的

本学学生の学生生活に対する満足度を調査することにより、教職員の対応を見直し業務改善及び施設設備の充実を図る一助とする。

2. 調査方法

(1) オクレンジャーによるアンケート調査

(2) 対象：本学に在籍する全学生（悉皆調査）

(3) 調査期間：令和6年11月20日～27日

(4) 調査内容：対象者の属性、サポート体制、教育施設・設備について

(5) データ収集方法：オクレンジャーによるアンケート内容の送信と各自入力後の返信

(6) 分析方法：単純集計

3. 結果

対象人数 422 人に対して回答数 279 人(回答率 66.1%)であり、回収率は昨年の 60.3%より 5.8%上昇した。ただし既読数 368 人(既読率 87.2%)となっており、未読 54 人を含む未回答 143 人が参加しなかった。

(1) サポート体制 *（ ）内は昨年データ

履修登録や単位取得について相談できる体制については、91(94.2) %が整っていると回答した。Unipa での休講・補講の確認は 85.7(75.4) %が確認していると回答した。見方がわからないが 2.2(0.8) %で上昇した。Unipa の掲示板は 79.2%が活用していた。その自由記述ではスマホサイトや深夜活用での不便、見づらいという意見が散見された。学生便覧は 61.2(60.4) %、シラバスは 70.5%が活用していると回答した。自由記述ではスマホで見たいという意見が多かった。

奨学金制度などの経済的サポート体制については 91.7(90.4) %が整っていると回答した。学生生活について相談できる体制については、88.5(87.3) %が整っていると回答した。からだやこころの相談環境は、「からだ」が

76(83.1) %、「こころ」が利用者において 79.9%であった。「こころ」の自由記述ではゼミ教員やアドバイザー、健康センターに相談をしていることがわかった。進路・就職サポート体制に満足しているかは、89.3(91.9) %が肯定的な回答をした。事務職員の対応については、満足と回答した者が前年同様 9 割以上であり、優しい、親切、丁寧、笑顔という自由記述が多くみられた一方で、2 件厳しい意見もあった。

(2) 施設・設備

学内の施設設備について、体育館、Wifi 環境の整備、男子更衣室、駐車場に対する意見が複数挙げられた。自習スペースについては利用者において十分と回答した者は 81.3(74.6) %、くつろげる空間では 77.4(77.3) %であった。食堂メニューは利用者の 9 割以上が肯定的で、その理由をメニューが豊富で美味しいとしていた。売店の充実は 82.8%に肯定的な回答がみられた。教室の空調(冷暖房)の効きでは十分と回答した者は 75.2(76.5) %であった。駐車場については、利用者において肯定的な意見が 61.8(72.3) %であり、デコボコや枠線の整備などの意見が見受けられた。

4. 考察

情報の活用において、スマホ利用やペーパーレス化への要求が高いことが明らかになった。

毎年、全般的な満足度は低くはないが、対応については個々に意識を高くすること、施設設備については随時学生の意見を考慮していく。

5. まとめ

昨年に比べアンケートの回収率が上昇し、自由記述にも学生は真摯に応じてくれていた。この結果を教職員全体で共有して、学生にも教職員にも誠実な対応を心がけ、快適な学校生活を実現できるように互いに意識して取り組んでいきたい。